

薬局で

カール・ファレンティン 「ごめん下さい。
リースル・カールシュタット いらっしやいませ。どんな薬を差し上げまし
ようか？

KV それが難しいんです。

LK はあ、ラテン語なんですネ。

KV いやいや、忘れてしまったんです。

LK そのうち思い出しますよ。処方箋はお持ちでない？

KV ええ。

LK いったいどこの具合が悪いのですか？

KV 処方箋がないのは具合が悪いですね。

LK いや、私がお聞きしているのは、あなたがご病気なのですか、ということ
です。

KV どうしてそんなことおっしゃるんです？ 私が病気に見えますかね？

LK いいえ、そういうことではなく、薬はあなたのためなのか、それとも
別の人のためなのか、という意味で申したんです。

KV うちの子供用です。

LK はあ、お子さんのね。つまり、お子さんが病気なんですね。で、どこ
が悪いんですか？

KV 母親との間がね。

LK 母親と仲が悪い？

KV ええ、実の母でないもので。

LK つまり、ママははですな。

KV ええ、残念ながら。母親が本当のママじゃないものだから、子供がか
ぜをひいてしまったのです。

LK お子さんは咳をしますか？

KV いえ、泣き叫ぶだけです。

LK どこか痛いのかもありませんね。

KV かもしれません。でも確かめるのは難しい。どこが痛いのか、あの子

は言わないんですから。継母と私はとても苦労しています。きょうは私、あの子にこう言ってみました。どこが痛いかちゃんと言ったら、かっこいいオートバイを買ってやるよって。

L K それで？

K V あの子は何も言いませんでした。ひどく強情っぱりなんです。

L K お子さんはいつたいおいくなんですか？

K V 六カ月です。

L K 六カ月では、まだしゃべれませんよ。

K V しゃべれはせんでしょうが、どこが痛いのか教えるくらいできるんじゃないませんか？ あんなに泣きわめけるなら、教えるくらいできますよ。そうすれば、病巢のありかがわかるのに。

L K ひょっとしていつも指をくわえていますか？

K V ええ、そうです。

L K それじゃ、もう最初の歯が出てくるんでしょう。

K V 誰が出すんです？

L K いえ、自然に出るんですよ。

K V 自然にね。そうかもしれない。でも、もしそうなら、泣き叫ぶことはないじゃありませんか。何かもらって泣く人はいません。皆、喜びます。

いやいや、あの子は病気なんです。それで女房にこう言われたんです。薬局に行って、もらって来てって。その薬の名は……

L K カミツレ茶、鎮炎・鎮痛剤の名ですか？

K V いえ、飲み薬ではないんです。

L K ことによると、虫がいるのかもしれないね、お宅のお子さんには。

K V いえ、そんなことは。もし虫がいれば見えるでしょう。

L K いや、体の中ですよ。

K V ああ、体の中ね。そこはまだのぞいてません。

L K お客様がどういうものをお求めかわからないと、薬剤師としてはほとんど困ってしまいますね。

K V 女房に、もし薬の名を忘れてしまったら、子供と、それからもちろん女房から、よろしく伝えるようにと言われました。あの子は今、眠れないんで

す。何かずつと興奮気味で。

L K 興奮気味なんですか？ それなら鎮静剤をお持ちなさい。もっとも良いのはイソプロピルプロフェミルバルビトウルザウレスフェニルディメチルディメンテトラミノフィラツオロンですね。

K V 何とおっしゃいましたか？

L K イソプロピルプロフェミルバルビトウルザウレスフェニルディメチルディメンテトラミノフィラツオロン。

K V 何という名前ですって？

L K イソプロピルプロフェミルバルビトウルザウレスフェニルディメチルディメンテトラミノフィラツオロン。

K V そうです、それです！ こんなに簡単なのに覚えられないんですね。